



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022 レポート



主催

公益財団法人 日本対がん協会
リレー・フォー・ライフ・ジャパン実行委員会

2022年度のリレー・フォー・ライフ活動を終えて

新型コロナ感染がはびこるこの約3年間、がんもしくはがんサバイバーさんを取り巻く状況にも新たな社会課題が生まれました。リレー・フォー・ライフ(RFL)へのご寄付などによって支えられている無料電話相談・がん相談ホットラインには、なおもコロナに関係する悩みが多く寄せられます。例えば、「感染が怖いので治療を延期したい」、あるいは「病院から治療スケジュールの変更を告げられた」「面会ができなくて不安だ」などです。総じて、コロナ禍で孤独感を訴えるがんサバイバーさんの相談は後を絶ちません。

「がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい」という目標を掲げて活動している日本対がん協会も新たな課題解決にむけて活動しています。こうした社会課題を解決するために必要な各々のコミュニティにおけるアクションという意味でも、RFLは非常に大きな価値がある活動です。

22年度、続くコロナ禍における活動には細心の注意を払い、41か所でリアルなリレーイベントを開催、13か所でオンラインイベントを実施しました。内ハイブリッドの展開は10か所でした。

また、22年度は「新3つのC」を合い言葉に活動を進めました。①Challengeは、3年目となるセルフウォークリレー(SWR)の、全国へ向けた更なる拡大です。計44団体(去年は27団体)が独自のイベントを立ち上げました。全国で5,399人(去年は4,662人)が歩き、8億1,221万歩(地球約16周分)にのびりました。②Collaborationではさまざまな形の連携を目指しました。がんサバイバー・クラブとのタイアップ企画・ジャパンキャンサーサバイバーズディの実施、協会支部とのがん検診車企画などです。③Communicationでは、リリースステークホルダー間での更なる関係構築を目指しました。実行委員会向けのニュースレターを毎月発行し、またZoomオンライン「みんなでリレー・フォー・ライフ」を8回実施しました。「Global Heroes of Hopeの会」と「アドバイザリーボード」の運営もリレーにおけるコミュニケーションを強く支えるものでした。

最後になりましたが、活動を牽引してくださっているボランティア実行委員会の皆様、変わらぬご支援をいただいているナショナルスポンサー様をはじめとする企業、団体様に深く感謝申し上げます。23年度も引き続きご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

公益財団法人 日本対がん協会
リレー・フォー・ライフ チーム一同

岡本宏之	(事務局長・RFL統括マネジャー)
原優子	(RFLアシスタントマネジャー)
松島順子	(RFL担当)
平野登志雄	(スタッフパートナー)
時森由佳	(スタッフパートナー)
堀均	(スタッフパートナー)
郷州葉子	(スタッフパートナー)
堀切園恵美	(サポーター)

リレー・フォー・ライフとは

がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、
がん征圧を目指します。1年を通じて取り組むチャリティ活動です。

1985年、一人の医師がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募りました。「がん患者は24時間、がんと向き合っている」という想いを共有し支援するためでした。共に歩き、語らうことで生きる勇氣と希望を生み出したいというこの活動を代表するイベントは、現在世界32ヶ国、約4500ヵ所で開催され、年間寄付は300億円にのぼります。

リレー・フォー・ライフ活動の締めくくりとしてウォークイベントが開催されます。会場ではチームの仲間とタスキをつなぎ、がん征圧を願い歩きます。

RELAY FOR LIFEの使命と3つのテーマ

Save Lives

セーブライブス

祝う

Celebrate

がんの告知を乗り越え、今を生きているサバイバーや家族などの支援者を讃え、祝福します。

しのぶ

Remember

がんで亡くなった愛する人をしのび追悼します。また病の痛みと悲しみと向き合っている人たちを敬います。

立ち向かう

Fight Back

がんの予防や検診を啓発し、征圧のための寄付を募り、がんで苦しむ人や悲しむ人をなくす社会をつくります。

3つのテーマに支えられ、使命である **Save Lives** が成り立っています

ロゴについて



リレー・フォー・ライフのロゴは、太陽を月と星をかたどった世界共通のものです。

それは昼夜を問わず、がんという病に立ち向かう世界中の数えきれない人々の勇氣とリレー参加者への絶え間ないサポートを象徴しています。いつの日かがんで悩むことのない社会が訪れるという希望の星をかかげ、輝く太陽の下、降りそそぐ月の光の中で参加者が一丸となって共に病に立ち向かう。

リレー・フォー・ライフのロゴには、そんな思いが込められています。

皆様からのご寄付

リレー・フォー・ライフで寄せられた寄付金は、公益財団法人 日本対がん協会を通じて、下記のような支援に充てられています。

がん患者支援



がん征圧

▶ リレーイベント



年間活動の締めくくりです。チームの仲間と会場でタスキをつなぎ歩いたり、キャンドルライトセレモニー「ルミナリエ」をおこないます。

▶ がんの悩み相談



看護師・社会福祉士などによる電話相談を実施しています。患者さんだけでなく、ご家族やご友人の方などなたでも無料でご利用いただけます。

がん相談ホットライン

☎ 03-3541-7830 予約不要

毎日(年末年始を除く) 午前10時～午後6時
どなたでもご利用いただけます

※受付日時は変更になる場合があります。
日本対がん協会ホームページでご確認ください。

▶ プロジェクト未来



がんの新しい治療法や新薬開発、患者のQOL改善に向けた研究に寄付金が活用されています。2022年度は14名の研究者に助成金が贈られました。

▶ がん検診受診率アップ



ポスターやパンフレットを制作・活用し受診を呼びかけます。支部と連動したリレー会場における検診車の手配や、セミナーなどの啓発活動もおこなっています。

▶ 若手医師育成

がん医療を深く学びたい若手医師育成のため、海外留学研修費用の一部を助成する取り組みです。米国MDアンダーソンがんセンターおよびシカゴ大学医学部での研修が、日本のがん医療発展につながることを期待して設立されました。初年度の2010年度からの受賞者は23名となります。新型コロナの影響で2020年度、2021年度は募集を休止していましたが、2022年度から再開しました。

‘Heroes of Hope’のご紹介

「ヒーローズ・オブ・ホープ(希望のヒーロー)」は、アメリカ対がん協会(ACS)から認定される名誉あるアワード。前向きにがんに立ち向かうサバイバー、ケアギバーの代表として、リレー・フォー・ライフに参加する各国から選ばれます。国内では、2010年から日本対がん協会が推薦。

協会とともにがん征圧を訴えていくとともに、ご自身のがん体験をさまざまな機会でも共有し、RFLを広めていく活動の先頭に立っていただきます。

2022年認定‘Global Heroes of Hope’



伊東 重明さん
(RFLJ 富山：サバイバー)

希少がんであるGISTと診断されましたが、リレーで多くの仲間と知り合い、様々な情報を得ることができました。全てのがん関連活動の拠点となっているRFLを通して自分の経験やリレーで得た情報を、がん啓発に役立てたいと思います。



高橋 寛美さん
(RFLJ きたかみ：サバイバー)

肺がんと診断され、自分が住む町にもリレーが必要だと感じ、実行委員長として活動しています。リレーは日本全国、海外のリレーヤーをも繋ぎ、勇気や希望をくれます。「がんになっても住みよい街を目指して」活動を続けていきます。



佐藤 隆次さん
(RFLJ いわて：ケアギバー)

外科医として多くのがん患者さんを診てきましたが、本当の意味でがん患者さんを支え切れていないと感じ、自分の街で実行委員会を作ることを決めました。リレーを通して、必要としている人を元気づけたいと思っています。

グローバル・ヒーローズ・オブ・ホープ・ジャパン(GHOHJ)の会について

2021年4月に発足したGHOHJ。会員はGHOHJの受賞者です。

具体的な活動

- ACSが主催する世界のヒーローたちとの情報交換をし、日本に発信する。
- 各種がん関連イベントにおいて、ヒーローをスピーカーとして招聘する。
- リレー・フォー・ライフ活動の提案や助言をする。
- がんサバイバーのQOLの向上や医療の在り方についてのアドボケート活動を行う。

2023年2月現在、GHOHJの会は、リーダー 堀均さん他副リーダー2名、事務局1名で構成されています。

RFLセルフウォークリレー2022

がんサバイバー支援を胸に5,399人が参加、8億1,221万歩（地球約16周分）を歩む

参加者が好きな時に好きな場所で歩いた歩数をスマホアプリに記録。参加費と歩数に応じた金額が寄付されるオンラインチャリティイベントです。

今年は3年目、5月から11月までの実施でした。協会本部に加え、27実行委員会と16企業、計44団体（昨年は27団体）が参画しました。期間は1週間から1か月と様々ですが、最多の430名参加の企業もありました。合計5,399



人（昨年は4,662人）が歩き、8億1,221万歩（地球約16周分）にのぼりました。セルフウォークリレーの様子は、各団体のホームページやSNSをはじめ、各地区の新聞、ラジオやテレビなどのメディアを通じて配信されました。

上記44イベントのご寄付は974万円。それに特別協賛15企業のマッチング寄付合計額1826万円を合わせた計2,800万円が今年のチャリティSWRの結果でした。お預かりしたご寄付は、日本対がん協会が運営している「がん相談ホットライン」の相談7,000件の運営に充てられます。ありがとうございました。

コロナ禍における新しいリレーの形として今後も継続してまいりますのでよろしくお願いいたします。

	企業チーム名	SWR実施日時	歩数	参加者数	寄付金(円)
1	湘南ヘルスイノベーションパーク	5/23～6/7	7,769,899	90	122,855
2	ECC	6/1～30	7,152,653	35	46,000
3	日本メドトロニック	6/15～7/15	22,596,493	145	576,947
4	明治安田生命 大阪第五M	7/25～8/25	8,474,407	41	41,000
5	テルモ	9/1～30	15,792,613	120	404,000
6	熊谷組	9/1～30	53,725,318	239	239,000
7	ブラザー	9/1～10/1	62,298,507	310	614,000
8	ベックマン・コールター	10/1～30	24,326,580	97	548,956
9	JAIFAソニー東京	10/1～31	4,009,798	31	28,000
10	第一三共グループ	10/8～31	51,256,866	307	1,293,000
11	チームタケダ・ジャパン	10/24～11/23	51,824,758	322	871,773
12	エーザイ	10/24～11/23	11,540,300	67	88,000
13	ラルフ ローレンG.K	10/25～31	9,479,644	228	228,000
14	ガーダントヘルスジャパン	11/1～30	6,529,011	38	153,645
15	小野薬品工業	11/1～30	56,582,207	430	438,000
16	ジョンソン・エンド・ジョンソン	11/10～30	4,104,983	39	271,000
	合計		397,464,037	2,539	5,964,176

	実行委員会名	SWR実施日時	歩数	参加者数	寄付金(円)
1	三重	5/1~31	3,834,630	22	10,000
2	きたかみ	5/14~6/11	9,870,354	74	99,000
3	佐世保	5/14~6/12	16,525,235	120	95,000
4	わかやま	5/28~6/27	7,407,903	37	49,000
5	神戸	6/11~7/10	7,163,674	35	48,000
6	とまこまい	7/17~8/16	45,044,349	401	374,000
7	甲府	7/28~8/27	7,737,635	48	46,000
8	いわて	8/20~9/18	6,413,506	38	30,000
9	石川	8/20~9/19	2,204,823	68	68,000
10	室蘭	8/27~9/25	25,342,656	200	842,000
11	青森	8/28~9/27	9,603,753	57	55,000
12	信州長野	9/1~30	11,321,065	86	109,000
13	東三河	9/1~10/1	10,007,394	66	98,000
14	信州まつもと	9/2~10/1	5,404,832	37	45,000
15	大分	9/10~10/10	38,412,592	363	393,000
16	滋賀医科大学	9/16~10/16	20,150,245	115	174,000
17	川越	9/18~10/17	40,402,011	203	170,000
18	とくしま	9/24~10/7	2,119,640	40	41,000
19	高知	10/1~30	18,523,304	142	194,000
20	御茶ノ水	10/1~31	24,789,426	124	193,000
21	にいがた	10/1~31	20,932,072	90	132,000
22	泉州	10/1~31	2,774,282	13	16,000
23	さいたま	10/8~11/7	29,361,718	145	187,000
24	ふくい	10/15~11/14	6,289,989	28	26,000
25	京都	10/22~11/20	13,672,049	72	68,000
26	静岡	11/1~30	6,033,659	47	44,000
27	おきなわ	11/1~30	7,121,618	79	70,000
	合計		398,464,414	2,750	3,676,000

	日本対がん協会 (全国だれでも)	11/1~30	16,283,052	110	106,000
--	------------------	---------	------------	-----	---------

北海道 室蘭市

室蘭実行委員会

離れていても心はひとつ

実行委員長
野尻 秀一

RFLJ室蘭2022は、通常どおりの開催は無理と判断し、今年もセルフウォークラリーを実施することにしました。その中でも何かできないか実行委員会で検討の結果、「離れていても心はひとつ」をテーマに、SWRの初日に小規模かつ短時間でもオンライン開催を実施することを決定しました。

8月27日の開催当日は、午前中の準備段階から小雨が断続的に降り続くあいにくの天気でしたが、会場も例年より相当小さくしたこともあり、実行委員プラス数名のボランティアにより何とか開催することができました。

初めてのオンライン開催ということもありアクシデントは多少ありましたが、ライブ映像の配信に加え、RFLの説明や過去のRFLJ室蘭を動画・写真で振り返るなどの配信もすることができました。またライブ映像の中では奇跡的に雲の切れ間から顔を出した夕陽もお届けすることができ、限られた時間ではありましたが皆様に楽しんでいただけたものと思います。

新型コロナの感染状況を含め、来年の夏がどのような状況になっているかは不透明であります。来年こそは、室蘭の会場で皆様とお会いできることを楽しみにしております。



リアル開催 —

開催地 —

オンライン 8月27日

SWR 8月27日～9月25日

総 収 入 1,021,105円

実 行 経 費 271,391円

寄 付 総 額 749,714円

北海道 苫小牧市

とまこまい実行委員会

NEXT STAGE /
希望はリアルからSWRへSWR アンバサダー
森本 淳子

2022年は新しいRFLJとまこまいの幕開けでした。会場を市内中心部の公園に移した事により、遠方からのアクセスが良くなり、誰もが気軽に参加できるようになりました。みどり豊かな公園の敷地内には図書館や博物館などが併設されており、沢山の方が来場する事を想像すると期待に胸が膨らみました。しかし当日は雨模様。本降りが続き、参加ブースも意気消沈。そんな中、新しい取り組みとして『フラワードネーション』や『子ども食堂』の参加など雨音にも負けず、元気な声が会場に響いていました。

3年ぶりとなるリアル開催は、サバイバー、ケアギバーの参加者が多く、また遠くから応援に駆けつけてくれた新たな仲間のトークイベントでは、胸が熱くなりこの気持ちをもっと多くの方と共有したいと感じました。

それぞれの形で参加をして頂き、原点である『がん征圧』という一つの思いを胸に、短い夏をリアル開催からSWRへと繋いだRFLJとまこまいでした。

いつもながら、多くの方々のご協力、温かいご寄付を頂いた事を実行委員として感謝しかありません。これからも私たちはがん闘うすべての皆さんのために歩き続けます。



リアル開催 7月17日

開催地 出光カルチャーパーク

オンライン —

SWR 7月17日～8月16日

総 収 入 1,588,873円

実 行 経 費 1,288,873円

寄 付 総 額 300,000円

青森県 青森市

青森実行委員会

原点回帰

事務局長
加藤 幸二

日頃からご支援頂いている皆様におかれましては、今年度も大変お世話になりました。今年度こそはと実行委員会を開催し、準備に努めてまいりましたが、開催直前にコロナ感染者が増加してしまいました。サバイバー、ケアギバーの体調を考慮、そして医療機関がひっ迫している状況下での開催による風評被害等を考慮した結果、本当に苦渋の決断ではございましたが中止とすることにしました。ご支援頂いた関係者の皆様には大変申し訳なく思っておりますが、この決断を支持して頂いたことにリレー・フォー・ライフの趣旨をご理解頂けていること、この啓発活動が浸透してきている証拠だと思います。

青森実行委員会では年間を通して啓発活動に取り組むべく、リレーイベント以外の活動を通年で、かつ継続して行う計画を立て活動していきたいと思っております。その一つとして行ったのが学生へのがん教育授業。実行委員である看護師とサバイバー2名が学校へ訪問し、がん教育を行いました。今後の将来を担う若い世代へのがん教育など、実行委員一人ひとりが日頃から行える啓発活動を心掛け、これからも活動していきたいと思っております。

来年こそは皆さんと元気な姿で、手と手を取り合い喜びを分かち合いたいと思います。ありがとうございました。



リアル開催 —

開催地 —

オンライン —

SWR 8月28日～9月27日

総 収 入 255,135円

実 行 経 費 0円

寄 付 総 額 255,135円

岩手県 一関市

いわて実行委員会

リレー・フォー・ライフ・ジャパンいわて
2022活動報告事務局長
佐藤 隆次

9月10日に11年目となるリレー・フォー・ライフが開催された。コロナ禍でのリアル開催で、遊水地記念緑地公園を会場に、午後2時から午後7時までの開催だった。参加者はサバイバー、ケアギバー、ボランティア(高校生も参加)、イベント参加者、実行委員会のメンバー総勢120人を越えた。例年行われている24時間の夜越えのイベントは、コロナ禍では開催できなかった。

開会式に続いてのイベントでは、在宅ケアについての鼎談、オカリナの演奏、FMあすもの塩竈さんの進行で参加者のリレーへの思いをそれぞれが語った。エンブティテーブルと詩の朗読には今年も大変感動して、新たなエネルギーを私たちに届けてくれた。短い時間ではあったが、がんと闘った人たちへの思い、今もがんと向き合って生活している人たちの支援、患者さんを支えているケアギバーへの感謝とねぎらい、参加者それぞれが思いを強くした素晴らしい時間だった。

リレーイベントに先だって、リレー・フォー・ライフの創始者のゴルディー・クラット医師の命日の8月3日には、その功績を讃えてリレーの原点を見つめるワンホープナイトのイベントが一関図書館前広場で開催された。

来年こそは、新型コロナウィルス感染が落ち着いて、24時間のリレーイベントができて、歩きながらみんなと夜通し語り合いたいと切に願っている。



リアル開催 9月10日

開催地 一関市遊水地記念緑地公園

オンライン —

SWR 8月20日～9月18日

総 収 入 1,260,306円

実 行 経 費 750,080円

寄 付 総 額 510,226円

岩手県 北上市

きたかみ実行委員会

がんになっても住みよい街を目指して

実行委員長
高橋 寛美

新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら規模を縮小し、3年ぶりにリレー・フォー・ライフ・ジャパンきたかみ2022リレーイベントを無事開催することができ、また想定人数を超える参加をいただき、本当にありがとうございました。リレーイベントを開催するにあたり、北上市、北上医師会、北上歯科医師会、北上薬剤師会の共催、市内外の企業、団体個人等多くの皆様のご理解ご協力があり、募金、協賛をいただきましたこと感謝申し上げます。

最近ではZoom等の配信技術も進み、離れたところにいる方とも簡単に顔をみながらお話することができる時代になりました。しかし今回イベントを開催し、実際に会って話すことの大切さ、また語らずとも一緒に寄り添い歩くだけで思いがわかり合えると、リアル開催したことであらためて感じとることができました。

私達実行委員は、今後も「誰のために、何のために」を忘れず、「がんになっても住みよい街をめざして」年間を通して活動して参ります。



リアル開催 6月11日

開催地 みちのく民俗村

オンライン —

SWR 5月14日～6月11日

総収入	782,635円
実行経費	141,514円
寄付総額	641,121円

宮城県 仙台市

みやぎ実行委員会

リアル開催に向けて、来年こそは

実行委員長
高橋 悦堂

みやぎでは新型コロナウイルスが蔓延して以来、リアルでの開催を行えずにいました。今年は短い時間、小規模でも良いからサバイバーさんやケアギバーさんたちに集まってもらえるリアル開催を企画しました。

3つのテーマにちなんだステージ企画、RFLの趣旨に賛同下さりこれまで幾度も協力して下さっているゲストアーティストの方々登壇、開会式に合わせて仙台駅や近隣の駅から開場まで参加者の皆さんと一緒にフラッグを掲げて歩くウォークイベントなど、短い時間のなかにてんこ盛りでした。しかし、残念なことに当日は平年を超える厳しい寒さと雨に見舞われ、サバイバーさんはじめ参加者の体調を留意し中止の判断を致しました。多くの方から「ひさしぶりのみやぎの開催、楽しみにしています」とのエールをいただいていただけに、とても悔しい判断でした。

それでも、心のこもったルミナリエを沢山お寄せいただいておりますので、このルミナリエだけでも飾ってセレモニーを行いたいと思い、12月17日、仙台国際センター駅構内にルミナリエセレモニーを行いました。この日のことを知った方々や駅を利用する人たちが足を止め、ルミナリエとそこに込められた想いに心を寄せて下さりました。

来年こそはRFLJ2023みやぎをリアルで開催し、多くの仲間と手を取りあい、思い繋ぐために、実行委員みんなで頑張ります。



リアル開催 —

開催地 —

オンライン —

SWR —

総収入	113,159円
実行経費	19,500円
寄付総額	93,659円

秋田県 秋田市

あきた実行委員会

秋田でのリアル初開催を終えて

実行委員長
守田 亮

実行委員が立ち上げたのが2019年の1月でした。その頃よりずっと思い描いていた、今回の会場でのルミナリエ点灯、そして参加者で心をつなげたウォーキングの実現でした。その想いは実行委員全員同じ気持ちだったと思います。終息の见えないコロナ感染の遷延のため2020年は開催中止、昨年はオンライン開催を経てのリアル開催でした。

3年越しの想いが届いたように9月中旬にしては暑さを感じるほどの雲一つない晴天の中で秋田の第1回目のリレーは開催されました。一部県外からご参加いただいた方もいましたが、多くが県内の参加者でのリレーとなりました。県内だけとはいえ、多くの方が秋田県のがん患者さんを支えようという気持ちを持ち、また様々な思いの中でリレーウォークを行っていました。実行委員としてもう一つ大切にしたいのが、県内のがん患者団体や支援団体の繋がりを強くすることでした。リレー・フォー・ライフの会場にて新しいつながりが生まれ、患者さん同士が手を取り合っていく姿は、本当にリアル開催できてよかったなという想いにしていただきました。



リアル開催 9月17日

開催地 秋田市千秋公園

オンライン —

SWR —

総 収 入 533,123円

実 行 経 費 405,932円

寄 付 総 額 127,191円

福島県 福島市

福島実行委員会

2022年のリレーに参加して

実行委員
江川 博幸

快晴の10/2(日)、福島市あづま総合運動公園中央広場にて福島のRFLは開催されました。やや沈静化していたとはいえ、未だコロナ禍のため、一日のみの短縮開催です。今までは体育館や陸上競技場などを会場に開催して来ましたが、今年は元々市民の憩いの場。とてもオープンな場所です。以前と比べると小さくまとまった印象はありますが、そのかわり散歩の途中の人が自然な形でRFLに触れることが出来、参加へのきっかけ作りにはとても良いと思いました。

思えば十三年前、入院した病院でポスターを見たのがRFLとの出会いでした。以前から音楽活動をしていた私は、もしかしたら少しはお役に立てるかも知れないと思い、元気になってRFLに参加することが闘病の目標のひとつになりました。そして翌年曲を書き下ろし、それからずっとRFL福島のテーマソングとなっています。

癌になると患者は強い孤独感と疎外感に襲われます。そんな時RFLは自分だけじゃない、一人じゃないことを教えてくれます。RFLは誰かが誰かを想う優しさで出来たイベントなのです。昨年度目の癌から生還し、閉会式にテーマソングを演奏しながら、そんなことをしみじみと思った2022年のRFLでした。

コロナ禍の中で開催に尽力された実行委員の皆さん、各関係団体、協力団体の皆さんへ、心からの敬意と感謝を込めてこのレポートを閉じたいと思います。ありがとうございました。



リアル開催 10月2日

開催地 福島県あづま総合運動公園

オンライン —

SWR —

総 収 入 2,149,440円

実 行 経 費 1,337,279円

寄 付 総 額 812,161円

栃木県 壬生町

とちぎ実行委員会

3年ぶりのリアル開催

事務局
及川 晟也

開始前は曇天であったが、リレーウォークが始まったら晴れてきて、幸先よくスタートすることができた。新型コロナ感染防止の観点から、規模は縮小させたものの、実行委員をはじめとした多くの参加者が元気にグラウンドを歩いていた。3年ぶりに現地開催ができ、人と人との触れ合いや話ができる現地開催の良さを改めて認識した。

Withコロナ時代へと進みつつある中で、規模を縮小させつつも現地開催できたことは、今後の開催に向けた自信につながる経験であると感じた。



リアル開催 9月17日

開催地 壬生町総合公園

オンライン —

SWR —

総収入	3,220,250円
実行経費	2,301,580円
寄付総額	918,670円

群馬県 前橋市

ぐんま実行委員会

おかげさまでRFLJぐんまは10周年

副実行委員長
狩野 太郎

2013年からスタートしたRFLJぐんまは、台風やコロナによる3年間の中止等を経て、今年で10周年を迎えることができました。感染予防のため時短・縮小開催となりましたが、垣添忠生 対がん協会会長をはじめ、千余名の皆さんにご参加頂き盛会となりました。緑の芝生に、サバイバーやケアギバーの皆さんの笑顔とルミナリエが輝き、喜びの音が溢れました。垣添会長には、実行委員長と一緒にすべてのチームテントを訪問し、記念撮影をしていただきました。

あっという間の10年でしたが、初回開催に向けて共に奮闘した実行委員の数名はすでに旅立ち、ケアギバーとして参加した何人かは、今は自身がサバイバーとなりました。エネルギーに満ちあふれていた初期メンバーの多くが後期高齢者となり、皆の生活もそれぞれ変わりました。これまで10年にわたって大規模開催が継続でき、この先10年の開催にも希望が持てるのは、協賛企業やボランティアの皆さんによる息の長いご支援、事務局や運営全般を担う群馬県健康づくり財団による絶え間ない協力の賜と、深く感謝申し上げます。これからまた新しい10年が始まりますが、ぐんまのリレーのバトン、実行委員のバトン、そして命のバトンを皆さんと一緒につないでゆきたいと思ひます。来年こそは、ルミナリエのキャンドルが燃え尽きるまで夜を越えて歩き、ぐんまの会場で5年ぶりに明けてゆく紫の空を、皆で見上げたいと思ひます。



リアル開催 10月8日

開催地 県総合スポーツセンター

オンライン —

SWR —

総収入	4,823,212円
実行経費	3,135,636円
寄付総額	1,687,576円

埼玉県 さいたま市

さいたま実行委員会

3年ぶりの開催と試み

事務局長
石島 みさ

昨年・一昨年は、オリジナルグッズの販売やSWRでがん患者支援チャリティを行い、実行委員メンバーで小さなセレモニーを開催することでリレーの灯りを繋いできました。そして今年10月8日は一日開催ではありましたが、3年ぶりにいつもの会場（緑の広場）でリレーイベントを行うことができました。

例年の半分の広さに設定したトラックも歩き甲斐十分とのお声をいただき、啓発講演優先でステージ音楽無しの試みや、サバイバーステント・出張なごみサロン（がんと向き合う語らいの場）と相談支援センターの連携も好評で、簡略化に取り組んだ設営・撤収も息の合ったOneTeamさいたまで、あっという間に終えることができました。病院関係や看護学校、参加できなかったチームのみなさんも、SWRへのご参加や、グッズ購入のご協力を下さり、たくさんのルミナリエやメッセージフラッグをお寄せ頂き、それは、たとえ会えなくても同じ空の下とても大きな力になりました。

さらに今年は、大竹実行委員長長の発案で埼玉県内3実行委員会（川越・ところざわ・さいたま）によるコラボレーション「TEAM彩の国」の活動がはじまり、コラボTシャツの販売やお互いの会場に足を運んでの交流を行いました。県内のサバイバーさんにとって「リレー・フォー・ライフ」が、さらに心強いものになるよう活動していきたいと思います。2022年もありがとうございました。



リアル開催 10月8日

開催地 さいたま市緑区 緑の広場

オンライン —

SWR 10月8日～11月7日

総 収 入	2,530,689円
実 行 経 費	1,603,874円
寄 付 総 額	926,815円

埼玉県 川越市

川越実行委員会

雨ニモマケズ 3年ぶりのリアルリレー

実行委員長
野口 悟

14年目を迎えた川越のリレーは、3年ぶりにリアル開催が出来ました。会場にサバイバーさん62名を含めた380名の方にご参加頂いた他、minpoでのセルフウォークリレーに188名の方にご参加頂き、充実したリレーとなりました。

ウォークは、参加者それぞれが街歩きを楽しみながら、チェックポイントを回って頂く形式での開催としました。当日の目標歩数101.9万歩を達成し、136.5万歩ものウォークとなりました。

今年の川越のリレーは様々なコラボが実現できました。埼玉県健康づくり事業団様の協力により、がん検診車に来てもらい21人の方が検診を体験頂きました。また、市内レンタル着物店とのコラボで、18名のサバイバーさんに着物で街歩きを楽しんで頂きました。さらに、市内飲食店とのコラボで、期間限定のドーナツクリームソーダが480杯販売され、売上金の一部をご寄付頂いております。

チェックポイントのお寺では寺ピアノとコラボし、ストリートピアノを行いました。また、地元中学校2校の生徒さんに、よさこいで参加者の応援や、がん検診の呼びかけをして頂きました。後日、実行委員の廣瀬医師が2校で「がん教育」の授業を行いました。他にも様々なコラボ、ご協力により素晴らしいリレーが出来ました。本当にありがとうございました。2023年は節目となる15回目のリレーです。また会場の皆様にお会い出来るのを楽しみにしております。



リアル開催 9月18日

開催地 川越市小江戸蔵里、他

オンライン —

SWR 9月18日～10月17日

総 収 入	1,387,568円
実 行 経 費	417,295円
寄 付 総 額	970,273円

埼玉県 所沢市

ところざわ実行委員会

第2回 RFLJ ところざわ。皆さまの
ご協力により無事に開催いたしました実行委員長
松島 一浩

2021年10月の初開催から半年の準備期間でしたが2回目となる今年は、リアル&オンラインのハイブリッド形式にて開催を無事に終えることが出来ました。昨年に続き啓発企画に重点を置き、井口晋利先生(免疫の働き)、高井良尋先生(BNCT療法)、樋野興夫先生(がん細胞から学んだ生き方)、垣添忠生先生(コロナ禍の検診)の4名のドクターから貴重なお話を伺いました。またトライアスロンの選手でサバイバーでもいらっしゃる椿浩平選手の体験談では、生きる希望や勇気を分けていただきました。更に今年は、埼玉県内で14年間活動が続けている「RFLJ川越・RFLJさいたま」の実行委員会と共に『Team彩の国』を立ち上げ、コラボ企画として記念Tシャツの製作・販売をしたり、お互いのイベントにチーム参加などし、一緒に会を盛り上げていただきました。今後も埼玉県内の地域の繋がりを強化しこの活動を更に拡げて行きたいと思います。最後に、今回リアル開催する中で、1人で悩んでいる方が多くいらっしゃる事を改めて実感しました。参加頂いたサバイバーさんからは『来てよかった』と笑顔で仰っていただき、胸が熱くなりました。RFLの使命『Save Lives (命と魂を救う)』をこれからも所沢に灯し続け、『たとえ、がんになっても大丈夫』と言える社会が1日も早く現実となるよう頑張っ参ります。ご支援ご協力頂いた皆さま、本当にありがとうございました。



リアル開催 5月28日～5月29日

開催地 所沢航空記念公園

オンライン 5月28日～5月29日

SWR —

総 収 入	1,324,962円
実 行 経 費	921,578円
寄 付 総 額	403,384円

千葉県 柏市

ちば実行委員会

ひとりじゃないよ ともに歩もう!

実行委員長
廣瀬 亜須可

昨年は、会議室中心にこぢんまりと、今年は、柏の葉コミュニティー体育館で大きく開催することができました。多くの皆さま方のご協力により開催できたこと、心より御礼申し上げます。感謝の気持ちでいっぱいです。

当日は、青空の芝生広場にテントを設置することもでき、屋内ではウォークの他、生演奏と歌、エクササイズで体を動かすなど、短い時間でしたが内容の濃い1日となりました。はじめて参加される方にも、リレーフォーライフの意味をお伝えできたのではないかと思います。遠方からおいでいただいたり、ご多忙の中お越しいただいたり、皆さんとともに過ごす時間の嬉しさとともに、次に繋がるイベントとなったことと実感しています。

『ひとりじゃないよ ともに歩もう!』の言葉どおり、決して一人じゃない!一人にさせない!という私たちの強い思いをまた新たに、皆さんにも感じていただけたのではないかと思います。

来年はさらに参加の方々と繋がる工夫をし、また、リレーフォーライフを知らない方々に一人でも多く参加していただけるようなイベントにしていきます。

そして今後も「ちば」ならではのリレーフォーライフの活動の歴史を重ねていきたいと思っています。まだまだ、初心者マークの私ですが、実行委員一同とともに皆様とお会いできることを楽しみにしております。



リアル開催 10月29日

開催地 県立柏の葉公園体育館

オンライン —

SWR —

総 収 入	516,746円
実 行 経 費	94,746円
寄 付 総 額	422,000円

東京都 台東区

東京中央実行委員会

3年振りのリアル開催
～共に集う再び～を願って事務局長
松原 幹夫

「RFLJ2022東京上野」は、上野恩賜公園で「集う」をテーマに、1日に短縮した3年ぶりのリアル開催でした。参加者約550名(内サバイバー110名)、来場者約5000名。いずれも例年のほぼ半数でした。様々な制約がある厳しい状況下でしたが、「皆に会えてよかった!」と、喜びのお言葉を多数いただきました。

開会式には小池都知事、服部台東区長に代わり東京都福祉保健局技監 成田友代様、台東区健康部長 高木明子様、タレントで「よつばの会」代表の原千晶様。

啓発プログラムでは、オンライン参加のコロンビア大学准教授成人緩和ケア入院部門ディレクター 中川俊一医師、原千晶様、虎ノ門病院臨床腫瘍科部長 三浦裕司医師で「日本のがん治療の現状～求められるものとは?日米の差より考える～」をテーマにディスカッションを行いました。ジャーナリストの石田雅彦様に「電子タバコ、加熱式タバコどこが違う?～最近分かってきた有害性と危険性～」、日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科部長 勝俣範之医師に「がん治療情報のつかみ方～検診から治療まで失敗しない患者・家族の歩む道とは?～」、放射線治療専門医 上松正和医師に「がんは早期発見で治る!簡単お手軽に早期発見は可能?～玉石混交、がんにもつわる情報の真贋「信じていいの?アノ情報」～」と題する講演と会場参加者との活発な質疑討論で、大勢の方が有益な情報を得られました。



リアル開催	10月1日
開催地	東京上野(上野恩賜公園)
オンライン	—
SWR	—

総収入	3,687,128円
実行経費	3,510,040円
寄付総額	177,088円

東京都 文京区

御茶ノ水実行委員会

時代とともに歩むリレー

実行委員長
渡辺 雅人

御茶ノ水実行委員会は、日々がんと向き合っている方々を応援し、その思いに寄りそっていきたい、頑張りすぎている皆さんには無理をしないで、周りの仲間に助けを求めてほしいという思いを込めて、「頑張らないを当たり前」というスローガンを掲げて活動しています。

本年度は参加団体や関連施設と協議の上、3年ぶりの現地開催を含めたハイブリッド形式で無事に開催する事ができました。オンライン開催だからこそ現地にいない方にもアクセスすることができる裾野の広さ、現地で皆でリレーを繋ぐことで一層感じられる皆様の思い、二つの良さを最大限発揮する事ができたと思います。また、東京医科歯科大学小児科と連携し、小児科に入院されている方々に手紙をいただいたサバイバーズフラッグや、AYA世代のサバイバーの方の思いを伺う座談会など、新しい企画も実現しました。

人と人とのつながりに新たな形が求められる時代において、リレー・フォー・ライフもまた、柔軟なあり方を求められていると感じます。そのような過渡期において、皆様に温かいご支援とご協力をいただいてリレーの新しい一歩を踏み出すことができた事を、改めて御礼申し上げます。がんと日々向き合っている方々が前向きな気持ちになれる、笑顔でいられる社会に向けて、今後も初心を忘れずにリレーをつなげて参ります。



リアル開催	10月8日～10月9日
開催地	東京医科歯科大学
オンライン	10月8日～10月9日
SWR	10月1日～10月31日

総収入	481,000円
実行経費	20,020円
寄付総額	460,980円

神奈川県 横浜市

横浜実行委員会

みなとみらい10年目の挑戦

実行委員長
池田 誠吾

みなとみらい地区で10回目という記念すべき大会となりました。まだまだコロナが落ち着いたわけでないですが、みんなで注意をしながら3年ぶりの夜越えをしました。ほぼ実行委員だけ参加する形ではありましたが、素晴らしいかけがえのない時間を過ごせました。今年の新たな取り組みとしては、もっとたくさんの人にこのイベントを知ってもらうために、開会式の4時間前に(16時開会式)キッチンカーの営業をスタート、各車にポスターを貼って宣伝してもらったり、紙芝居を開催して見に来てくれた方にチラシを配りもしました。ルミナリエに関しては、昨年を大きく上回る約1300枚が会場に並び、素晴らしい景色を観ることが出来ました。ルミナリエを並べて頂いた方々、撤収作業にお手伝い頂いた方々本当にありがとうございました。

今後に向けての課題はたくさんあります。夜越え参加者を増やすには?寄付金額をさらに増やすには?など考え始めるとキリがないですが、そうやって実行委員の仲間と喧々諤々とやってるうちは必ず良くなる!と信じています。常に新しい取り組みに挑戦する横浜実行委員会を続けていきます。

がんと笑顔が共存できる世の中を願って… 感謝。



リアル開催 10月1日～10月2日

開催地 臨港パーク

オンライン —

SWR —

総収入	1,461,770円
実行経費	431,770円
寄付総額	1,030,000円

新潟県 新潟市

にいがた実行委員会

3年ぶりのリアル開催

事務局長
本間 雄一

去る10月16日、3年ぶりになります現地「リアル開催」を1日限りでしたが無事開催することが出来ました。楽しみにされている皆さまのためにリアル開催を実現したいという強い思いと新型コロナウイルス感染症の蔓延を危惧する思いとの狭間で協議に協議を重ね、以前のような夜通し(2日間)開催に向けたトライアルという位置づけで進めて参りました。開催直前には規模の縮小を余儀なくされる緊急事態等もありましたが、多くの皆さまのご協力の元、イベント運営についても無事に終えることが出来ました。当日は天候にも恵まれ、リレーウォークをメインにがんカフェ・サバイバーズトーク・ルミナリエセレモニーを催し、3年ぶりにお会いする方々や初参加でイベントを楽しみにいただいていた方々と直接触れ合い、笑いあり涙ありのハートウォーミングなイベントとなりました。心配された会場からの感染報告も無く、感染症対策の下「安心・安全第一」で無事成功できました。セルフウォークリレーについても初開催でしたが目標を早い段階で達成することが出来、こちらも大成功だったかと思います。無事に終了できましたこと、多くの皆さまに心より感謝申し上げます、ありがとうございました。最後に、NHK新潟放送局でTV放送された動画「にいがたWEBレポート」がアーカイブ視聴(8分間)可能です。是非ご覧ください!



リアル開催 10月16日

開催地 新潟県スポーツ公園

オンライン 10月16日

SWR 10月1日～10月31日

総収入	1,770,832円
実行経費	1,364,392円
寄付総額	406,440円

富山県 富山市

富山実行委員会

リレー・フォー・ライフ・ジャパン富山
初開催大好評のうちに終了しました実行委員長
伊東 重明

当初は2021年初開催の予定でしたが、コロナの影響で延期されました。2022年5月、実行委員の皆さん並びに地域の皆さんが協力して初開催を迎えることができました。

当日は朝から曇り模様ではありましたが、美しい富岩運河環水公園の中で医療講話、サバイバーズトーク、キッチンカー、企業様ブースで盛り上がりました。

今後ともリレー・フォー・ライフの活動趣旨をご理解頂き、ご支援ご協力を承りますよう、宜しくお願い申し上げます。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2022富山に寄せられました募金及び協賛金は、必要な経費を除き公益財団法人「日本対がん協会」へ全額寄付させて頂き、がん患者支援及び、がん征圧の一助として役立たせて頂きます。

次年度も実行委員全員で力を合わせて素晴らしいRFLを作っていきたいと思えます。



リアル開催 5月21日

開催地 富山富岩運河環水公園

オンライン —

SWR —

総 収 入	1,129,467円
実 行 経 費	723,123円
寄 付 総 額	406,344円

石川県 金沢市

石川実行委員会

チャリティゴルフコンペと
メッセージ・ツリー実行委員長
龍澤 泰彦

72名の参加者を迎え、ガンと乳がんの正しい知識と、早期発見・早期治療の大切さを学び、ペアマッチ・ゴルフを通じて、支え合う事の大切さを感じて頂きました。

また、「メッセージ・ツリー」は、金沢の海の玄関口として賑わっている金沢クルーズターミナルにおいて10月21日～10月23日まで開催され、10月23日の「かなざわピンクリボンプロジェクト実行委員会」主催の「メッセージ・ウォーク」の会場にも、ブースを展開。多くの「メッセージ・カード」によって、ツリーが飾られました。

他の団体とコラボすることによって、より多くの出会いがあり、喜びがあり、笑顔あふれるイベントを開催することができました。

チャリティゴルフコンペと、メッセージ・ツリーに参加して頂いた多くの方々に感謝申し上げます。



リアル開催 —

開催地 —

オンライン —

SWR 8月20日～9月19日

総 収 入	268,000円
実 行 経 費	112,210円
寄 付 総 額	155,790円

福井県 福井市

ふくい実行委員会

今年のテーマ『再会』 そして、これから繋がる未来へ

実行委員長
鈴木 之仁

RFLJふくい2022は、10月15日、期間は1日に短縮となりましたが、3年振りに、福井市の『ふくい健康の森』で、一堂に会して開催することが出来ました。ここに至るまでには紆余曲折ありましたが、やはり、サバイバー、ケアギバーの方々の、「リアルで開催したい!」との、強い要望により、開催に至った次第です。今回は、2つの新しい事にチャレンジしました。一つは、セルフウォークリレー(SWR)、もう一つは、『あったカード』です。

SWRは、遠方の方、新型コロナの影響などで参加が難しい方でも、RFLの活動を共に出来るよう、導入いたしました。離れていても、がん患者さんやその支援者の方々の想、皆様の気持ちが共有でき、一人一人の力は小さいかもしれませんが、それを一つに集結すれば、とても大きな力になるからです。

もう一つの『あったカード』は、実行委員の方からの提案でした。内容は、プレゼントを贈りたい人が300円を支払い、メッセージカードを購入し、どんな人にも送りたいか記入する。もらいたい人は、会場にて自分向けであろうカードを選び、お返事を書いて、飲み物を受け取る。そのカードは閲覧可能にしておくというものです。楽しみながら、そして、送る人の思いを感じながら、募金していくというものです。5年10年と経過すると、そのカードが、RFLふくいの歴史を作ってくれるものになると期待しております。



リアル開催	10月15日
開催地	ふくい健康の森
オンライン	—
SWR	10月15日～11月14日

総収入	1,273,382円
実行経費	573,084円
寄付総額	700,298円

山梨県 甲府市

甲府実行委員会

「風林火山陰雷」の第2章『林』の巻

実行委員長
前澤 美代子

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2022甲府は7回目となりました。37.2度。これは体温の微熱ではなく甲府の気温でした。400個のルミナリエを並べながら「やっぱり熱くないと甲府じゃないし、リレーイベントでもないよね」と、わくわくしながら準備をしました。開会式では、日本対がん協会梅田理事長、共催の山梨県立大学早川学長、樋口甲府市長、山梨県福祉保健部成島部長、山梨県看護協会佐藤会長から応援のお言葉をいただきました。ルミナリエセレモニーを厳かにを行い、夜通しウォークは実行委員のメンバーでリレーをして朝を迎え、早朝マインドフルネス、閉会式、バルンリリースでの次年度の約束をして終了しました。

感染対策のもと、学部生からの提案のキッチンカーによるアイスレモネードやかき氷、クレープ、おにぎり屋さんなどでにぎわい、また、将来医療者を目指す高校生もボランティアとして参加し、未来につながるリレーイベントになりました。

昨年の冬のルミナリエにがん終末期にある奥様と参加されたご主人がいらしてくださり「今年は一人になってしまった。でもあの時に来て、このルミナリエの灯を見たあの時間は忘れない」とおっしゃっていました。地道にみんなで頑張る甲府実行委員や関わってくださっているすべての方に感謝いたします。



リアル開催	8月26日～8月27日
開催地	山梨県立大池田キャンパス
オンライン	—
SWR	7月28日～8月27日

総収入	763,997円
実行経費	239,825円
寄付総額	524,172円

長野県 長野市

信州長野実行委員会

Shake Hands ～つなごう命～
愛と笑顔で実行委員長
北條 千秋

RFLJ信州長野は、2012年に初めて長野市でリレー・フォー・ライフを開催してから11年目ですが、2021年がコロナ禍で中止となったため、今回が10回目の節目の開催となりました。

内容はシンプルにすることをこころがけ、開催時間を短縮し、例年の参加チームには人数の制限を求めるなど、参加者の安全を優先しつつ、心温まるリレーとして開催出来るように努めました。

日本対がん協会の垣添会長には、「わが国のがん対策に占める、検診の重要性」と題して講演いただくとともに、来長を心待ちにしていた多くの方々とも交流をいただきなどしました。

“がん”になっても心身に大きなダメージを受けずに生活を継続できる社会が望まれます。私たちに出来るのは、検診による早期発見と治療法の進化のために研究者等の力になること、そして思いを共有し支え合うことと考えます。

SWRを含めて、協力をいただきました多くの皆さんに感謝を申し上げるとともに、次の10年へとつなげられたことを報告いたします。



リアル開催 9月17日

開催地 長野駅東口公園

オンライン —

SWR 9月1日～9月30日

総 収 入	1,788,595円
実 行 経 費	423,217円
寄 付 総 額	1,365,378円

長野県 松本市

信州まつもと実行委員会

今だからできる事を

副事務局長
廣田 有紀

コロナ禍となって3年が経ち、私たちのコロナとの向き合い方や世の中の対応に変化が見え始めた2022年、コロナ感染者数は気になるものの、感染対策をしてできる事をやろう!と活動を継続していました。今年は松本城大手門枳形跡広場に於て9月3日に開催いたしました。実行委員やボランティアが集合した時間には、生憎の雨。しかも土砂降りでした。カップ着用、長靴でのテント張りは、皆さんの協力があってこそで、開催できるかの不安は吹っ飛びました。我々の熱い想いが天に通じたのか、天気は回復し、太陽も顔をだしてくれ、全ての内容を執り行う事ができました。通常ではチーム参加でリレーウォークを繋げますが、松本城周辺にはたくさんの井戸があり、個人や家族で参加して、井戸をめぐりながら街中をウォークしていただきました。昼間はキッチンカーやライブ、自衛隊などの参加があり賑わいました。夕方にはルミナリエにキャンドルが灯され、広場いっぱいにyou raise me upの歌声が響き、天国に旅立った仲間を偲びました。当日は公式LINEで情報を配信しましたので、来られなかった方にも見ていただけました。SWRでは40名程に参加いただきました。信州まつもとの開催にあたり、例年通り協賛して下さった企業やボランティアの皆さん、多くの方の支えがあり実施できたことに感謝しています。来年はいつもの場所で皆さんとお会いできる事を楽しみにしています。



リアル開催 9月3日

開催地 松本城大手門枳形跡広場他

オンライン —

SWR 9月2日～10月1日

総 収 入	563,469円
実 行 経 費	152,844円
寄 付 総 額	410,625円

岐阜県 岐阜市

岐阜実行委員会

新しいRFL 岐阜を作ろう！ 届けたい思いがある限り、歩き続けよう！

実行委員長
古澤 晴美

RFLJ岐阜は昨年に引き続き、“ぎふメディアコスモス”での開催となりました。

4月の岐阜実行委員会のキックオフミーティングで、メンバーには「どんなRFLにしたいですか?」「これから何がしたいですか?」という質問をしてメモに一つ一つ書いてもらいました。

「音楽コンサートをやりたい」「新しい仲間を増やしたい」「他団体と連携したい」等、沢山の意見がでました。皆さんの心の中にそれぞれの想いがあり、それに向けて進んでいけば必ず新しいRFLJ岐阜が作れると信じて準備を重ねました。

10月に入ってから毎日、祈るような気持ちで天気予報を見ては、ため息をついていたのですが、当日は祈りが通じすぎて雲一つない快晴!!

昨年は規模縮小の為出来なかったチーム参加も今年から再開させ、これまでの参加常連チームに加えて書道アート、ハンドクラフトのチームが加わり大変にぎやかになりました。音楽ライブ、よさこい、ちんどん屋さんなどのパフォーマンスや、AYA世代がん経験者の講演もあり参加された方が楽しく、実り多く共に過ごす時間となりました。日暮れには岐阜市庁舎の紫ライトアップを皆さんが喜んでくださった事も忘れられません。長く会う事のできなかった仲間との涙の再開、新しい出会い、旅立っていった方々への追悼。

届けたい思いがある限り「また会おう、一人じゃないよ」



リアル開催 10月15日

開催地 ぎふメディアコスモス

オンライン —

SWR —

総 収 入 482,060円

実 行 経 費 102,013円

寄 付 総 額 380,047円

静岡県 静岡市

静岡実行委員会

10年を迎えて新しい形のリレーへ

Web担当
三室 さつき

令和4年11月12日(土) 青空が広がる中、「RFLJ2022静岡」を静岡県立大学草薙／小鹿キャンパスにて開催いたしました。今年度は、当初から台風の影響がない11月ごろが良いのではということから、11月12日を設定していましたが、コロナの状況次第で先が読めず、イベントを形にすることが難しい状況でした。定例会も9月まではZoom会議、草薙と小鹿キャンパスの2会場をリモートでつなぐという初めての試みに、昨年に引き続き、県立大学渡邊先生の研究室のご協力をいただきました。初めての会場でリアル参加の方々を迎えてのウォークと、短期大学部の学園祭との初コラボとなりましたが、実行委員の総力とチームの皆様の協力、関係者の方々の支援のもと、無事に終了できたことは、大きな収穫となりました。

20:00終了でしたので、夕方からルミナリエバッグが点灯し、日暮れとともに浮かび上がるメッセージとエンピティテーブルを囲んだセレモニーは、初めて見る方にも感動していただけたのではないかと思います。

サバイバーフラッグを見て、予想以上に多くのサバイバーさんの手形が押されていたことを大変うれしく思いました。これからも静岡らしい「命のリレー」で、未来へ想いをつないでいきたいと思います。



リアル開催 11月12日

開催地 静岡県立大学短期大学部

オンライン 11月12日

SWR 11月1日～11月30日

総 収 入 1,021,433円

実 行 経 費 359,103円

寄 付 総 額 662,330円

愛知県 豊川市

東三河実行委員会

希望の灯は永遠

実行委員長
小林 良紀

『ゴールは諏訪公園で』を合言葉に、9月1日から10月1日の間セルフウォークリレーにチャレンジし、10月1日・2日にチャリティーイベントを行いました。いざ開催を決めたものの、コロナブランクで賛同者（チーム参加・広告協賛等）が集まるか、開催場所が改修工事で使用できない等、一抹の不安を抱えながら準備をスタートしました。しかしながら、実行委員の地道な努力と皆様の変わらないご支援および、会場も地域住民のご理解により豊川市諏訪公園に決まり、素晴らしいイベントが開催できました。特に、開催会場はそれぞれの施設が離れず近からず心地よい距離感でおさまり、これまでのイベントにはなかった一体感が生まれ楽しいイベントが開催できました。

また、初チャレンジしたセルフウォークリレーでは、参加者68名（目標達成率68%）で総歩数は約1,000万歩（同50%）と、残念ながら目標は達成できませんでしたが、原因を究明し次回への確かな手応えをつかみました。この反省を教訓として来年再チャレンジします。

3年ぶりのリアル開催に、皆さんから「元気だったよ。楽しいね…」と声を掛けられ、離れていても同じ空の下でつながっていると感じるとともに、想いが込められた希望の灯は、決して消してはならないと強く思いました。

来年、RFLJ東三河は10年目を迎えます。記念になる開催を目指します。



リアル開催 10月1日～10月2日

開催地 豊川市諏訪公園

オンライン —

SWR 9月1日～10月1日

総収入	1,426,348円
実行経費	518,044円
寄付総額	908,304円

三重県 松阪市

三重実行委員会

コロナ禍でのリアル開催（2回目）

実行委員長
大西 幸次

昨年に引き続き、コロナ禍ではありますが、会場が広くソーシャルディスタンスも保てるため、リアル開催を実施しました。

昨年より1時間早く開会式を行い、ステージイベントとして「よさこい」等3チームに披露していただきました。

中でも小中学生による「けん玉ダンス」は思っていたより感動し、踊りながらけん玉を落とさないって、想像より凄かったです。

参加者167名中、サバイバーが37名と、たくさんのサバイバーが参加してくれました。

昨年は、県外からの参加もご遠慮いただきましたが、今年は県外も含めたくさんのリレホファンに来ていただきました。

また、昨年よりチラシ等の作成が遅れ、寄付金等も昨年より少なく、来年に向け課題となりましたが、三重では寄付率70%以上を目標として経費節減に努めています。

三重実行委員会は11名で構成され、来年も5月開催を目指し、頑張りたいと思っています。



リアル開催 5月21日～5月22日

開催地 松阪市総合運動公園

オンライン —

SWR 5月1日～5月31日

総収入	886,923円
実行経費	287,697円
寄付総額	599,226円

滋賀県 大津市

滋賀医科大学実行委員会

新しいイベント、新しい実行委員会

実行委員長
上原 希

コロナで2年、台風で1年。長かった“充電期間”を経て、4年ぶりに滋賀医科大学実行委員会のリレーイベントに対面開催が戻ってきました。制限付きではありましたが、対面でのリレーイベントを無事に終えることができたことに安堵しています。

全国で唯一のカレッジリレーである滋賀医科大学実行委員会にとって対面開催のなかった3年間はとても長い時間でした。この間に多くの先輩方が卒業していき、対面でのイベント開催を知る実行委員会はわずかとなりました。

対面会場の設営に際しては、今までの再現ではなく、あくまでも今年度、そしてこれからのRFLを意識して考え、行動しました。その結果、今までとは異なる全く新しいイベントを作ることが出来ました。経験の浅い、若く、新しい実行委員会でしたが、ほんの少し、自信を全員で共有することが出来ました。また、オンライン上の交流の場、「かたりば」を今年も実施し、全国から多くの参加者の方と時間を共有しました。改めて、本実行委員会を支援してくださる方の存在を認識することができ、来年こそ学外の方も呼び出すことができるように準備したい!と心から感じました。

最後になりますが、全国各地から見守ってくださった皆様に感謝申し上げます。来年以降もカレッジリレーとしての役目を果たしていきたいと思います。本当にありがとうございました。



リアル開催 10月15日～10月16日

開催地 滋賀医科大学体育館

オンライン 10月15日～10月16日

SWR 9月16日～10月16日

総収入	1,041,646円
実行経費	425,590円
寄付総額	616,056円

京都府 京都市

京都実行委員会

3年ぶりのリアル開催

実行委員長
清水 大器

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2022京都は、3年ぶりとなるリアル開催を京都薬科大学中央庭園にて実施することができました。参加者の皆様には手指消毒・検温・マスク着用義務化などにご協力いただいた上、夜越えなしの縮小開催プログラムを計画し、実現することができました。がんサバイバーやそのご家族をはじめ、大学教員および学生、協賛企業の方々を含めた146名もの方にお集まりいただき、盛況のうちにイベントを終了することができました。

京都でイベントが初開催された2013年以降サバイバーの皆様と京都実行委員会であつないできた京都独自のタスキを繋ぐ“タスキセレモニー”のほか、“ルミナリエセレモニー”、そして、サバイバーと学生が交流する“語り場”などの企画を実施しました。短いイベント開催時間ではありましたが、ご参加いただいた皆様からは、「また集まることができてよかった」「京都のリレーに来てよかった」などの声をいただき、実際に顔を合わせ交流する場所を維持していくことの大切さを実感しました。

コロナウイルス感染拡大によって京都府内においても、がん患者と交流し、がんについて発信する場がコロナ禍以前に比べ減少し、大きな問題となっています。府内におけるがん患者支援・啓発活動を今後も率先して進めていけるよう、京都実行委員会一同、引き続き誠意準備を進めていきたいと思っています。



リアル開催 10月22日

開催地 京都薬科大学中央庭園

オンライン —

SWR 10月22日～11月20日

総収入	458,969円
実行経費	153,564円
寄付総額	305,405円

大阪府 貝塚市

泉州実行委員会

3年ぶりのリアル開催 笑顔☆つながる

副実行委員長
難波 ゆき子

素晴らしい青空のもと「リレー・フォー・ライフ・ジャパン泉州かいづか2022」は、大阪府貝塚市「市民の森広場・シェルシアター」にて10月29日・30日に開催されました。コロナ禍の2年間はオンライン開催で、今年のリアル開催を実行委員一同ワクワクして待ち望んでいました。

開会式では酒井貝塚市長のリレー・フォー・ライフへの期待を込めたお言葉をいただきましたが、残念だったのは朝日実行委員長が出席出来なくなり、やむを得ず当日届いたメッセージでの参加となったことです。

会場では久しぶりにお会いするチームや、初参加のチームの方々と笑顔で言葉を交わしながら「やっぱりリアル開催って、いいなあ」と感じました。参加者数は以前より少なくても、実行委員それぞれが濃い交流を行えたようです。

シェルシアターでは歌・ダンス・バンド演奏等、次々と楽しませてくださり、また市立貝塚病院 玉木 康博先生の医療講演「がんと遺伝子」～がんゲノム医療ってなに？～ ～がんは遺伝するの？～も盛況でした。

海に面した会場は強い浜風で寒さもひとしおですが、ウォークリレーを途切れさせないように頑張ってくださった皆さま、ご参加いただきました皆さま、募金のご協力をいただいた皆さま、ご協力をありがとうございました。

今後がん征圧を目指して、活動を続けていきたいと思います。



リアル開催 10月29日～10月30日

開催地 貝塚市民の森

オンライン —

SWR 10月1日～10月31日

総 収 入	974,057円
実 行 経 費	545,436円
寄 付 総 額	428,621円

大阪府 大阪市

大阪あさひ実行委員会

K君の思いを繋ぐ

実行委員
法貴 みさこ

RFLJ大阪あさひは、18歳で他界されたK君が自身の闘病中に高校院内学級制度実現を訴えるなどの活動がきっかけで開催され、今年で10年目になる。

開催当日、寺前実行委員長より『もしも癌サバイバーのかたがひとりで来場されているのを見かけたら、絶対にひとりぼっちにさせないでほしい』との話があった。私はそれを聞いた時に『世界一優しいRFLを目指している』と言う意味が分かった。またその思いが伝わった。

私は初めて参加したが、とにかく会場のいたる所に優しさがあふれていた。これは“RFLJ大阪あさひ”開催から10年間、みんながK君の思いを繋いできた賜物だと思う。

印象に残った事は沢山あるが、中でも初の試みであるAYA世代トークの時間に2人の青年が自分自身の闘病体験を現役高校生に語ってくれた。勇気がいることだったと思うが、K君が伝えたい事、思いを代弁してくれているように感じた。また、K君の姿を胸に懸命に生きている事が伝わった。

また、自身も癌サバイバーである河内音頭の河内家菊水丸さんが、多忙な中わずか数分間の登壇にもかかわらず、来場してくださった。何としてでも会場に行くという強い気持ちに感激した。

また、来年も『みんなにとって特別な場所であるRFLJ大阪あさひ』で再会出来る事を願っている。



リアル開催 10月9日～10月10日

開催地 大阪市立旭区民センター

オンライン 10月9日～10月10日

SWR —

総 収 入	320,492円
実 行 経 費	43,135円
寄 付 総 額	277,357円

兵庫県 芦屋市

関西(芦屋)実行委員会

この場所で、私は歩き始めた。 実行委員長
この場所で、私はあなたと再会する。 明路“ジメさん”英雄

2021年末から開催計画を進めて来ましたが、7月に入って兵庫県のコロナ感染者数が連日1万人を超える状況の中、実行委員会では内容の大幅変更を決定。グラウンド開催を断念し、体育館内でのハイブリッド開催をすることになりました。

来場者とスタッフ、ボランティアの安全を期すため検温・手指消毒・マスク着用の厳守、入場制限・参加時間割・密を避けるための工夫などをし、来場者のご協力もあり、ほぼ問題なく開催出来ました。

2年間のオンライン開催で対面出来なかったサバイバーとケアギバーの皆さんの笑顔を見ることが出来て本当に良かったと思います。

特に今年は芦屋市内の各団体のご協力を得て、各種の企画は笑顔と拍手で好評でした。

スローガンの「この場所で 私は歩き始めた。この場所で 私はあなたと再会する。」の通り、優しい心の通い合う温かいリレーが出来ました。

最後にご支援ご協力下さった全ての皆様に感謝致します。2023年も又、芦屋で再会しましょう。



リアル開催 9月3日～9月4日

開催地 芦屋体育館青少年センター

オンライン 9月3日～9月4日

SWR —

総 収 入 2,855,854円

実 行 経 費 2,511,166円

寄 付 総 額 344,688円

兵庫県 神戸市

神戸実行委員会

雨にも負けないハイブリッド開催 実行委員
春名 伸泰

RFLJ2021神戸(10月開催)から7か月余り。3年ぶりの6月開催。RFLJ2022神戸の準備を短い期間で進めました。武内顧問からの「どないかなりまっしゃろ」という何とも根拠のない自信に励まされつつ、様々な変化に対応しつつ。

6月11日(土)の天気予報は雨。朝から時折雨がぱらつく中、9時から始めた設営は何とか間に合いましたが14時の開会時には本降りとなり、ステージ前には多くの傘の花が咲きました。14時半、定刻通りサバイバーズラップ、キャンドルラン、リレーウォークがスタート。雨具を着て、夜通し走り・歩く参加者の皆さん。頭が下がります。幸い雨は夜更け過ぎにあがり2日目は朝から暑いくらいでした。

神戸ではコロナ前の2016年からリアルとYouTubeのハイブリッドで開催しています。会場ではリレーウォークやキャンドルランの参加者が持ち込んだテントの中で、ステージの様子をスマホでご覧になっています。また、ミュージックパトンに参加される演奏者はYouTubeをご覧になりながら会場に来られる方も多いと聞きます。2023年、神戸は開催10年目を迎えます。初心を忘れず、一步一步踏みしめながら、前に進んでいこうと思います。

2023年6月にみなとのもり公園(神戸震災復興記念公園)でお会いできることを楽しみにしております。



リアル開催 6月11日～6月12日

開催地 神戸震災復興記念公園

オンライン 6月11日～6月12日

SWR 6月11日～7月10日

総 収 入 1,056,624円

実 行 経 費 993,998円

寄 付 総 額 62,626円

和歌山県 和歌山市

わかやま実行委員会

みなさまと迎えられた
ドーンパープルの朝。実行委員長
富士 希

今年もコロナ禍での開催となったリレー・フォー・ライフ。

実行委員の思いは、毎年あの場所を作ること。

24時間開催にこだわってきたわかやまにとって、時間短縮は苦渋の決断でした。

その中でも、みなさまそれぞれの思いを少しでも大切にできるように、それが今年のわかやまのリレーの目標となりました。

和歌山城の下、ルミナリエの並ぶ広場で、走る、歩く、語り合う、偲ぶ、祈る、涙する、笑う、抱き合う…いろんな思いが溢れ、ともにドーンパープルの朝を迎えられたことを喜び合えたリレーとなりました。

ご支援いただいた全てのみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。

わかやま実行委員会は来年10回目を数えることとなりますが、またみなさまとお会いできますよう実行委員一同、想いを繋いでいきたいと思います。

この一年間、誠にありがとうございました。



リアル開催 5月28日～5月29日

開催地 和歌山城公園砂ノ丸広場

オンライン —

SWR 5月28日～6月27日

総 収 入	1,133,880円
実 行 経 費	424,503円
寄 付 総 額	709,377円

広島県 尾道市

広島実行委員会

がんにもコロナにも負けないぞー！

実行委員長
浜中 和子

RFL広島2022の閉会式を無事に迎えられて、ご協力いただいた多くの方々に感謝の気持ちで一杯でした。今年も、コロナ禍のためにハイブリッド開催でしたが、昨年より沢山の方が会場に来てくださいました。最新のがん治療の講演、大腸がん、抗がん剤の講演を聞き、がんになっても決してあきらめてはいけな希望が持てました。コロナ禍の運動不足対策のお話や、歌や演奏も聞かせていただき、子供達の元気なダンスにも心が癒されました。ルミナリエステージとがん患者の思いを伝えるステージで、がんになっても、前向きに生きる、あきらめない、仲間と支えあって生きる、コロナ禍でもがん検診を受け、早期発見、早期治療をしてがんで命をなくす方がひとりでも減るようにしようというメッセージを受け取りました。毎年がん体験者の方が伝えてくれる貴重な言葉、それがRFLの大事な宝物だといつも思っています。今年もHOPEのルミナリエがともされた時、これからも私たちの心にHOPEがいつまでも輝いて、どんな状況であっても決して諦めず、希望を持って生き続けて行こうと決意しました。実行委員の仲間とこのコロナ禍の中でRFL広島2022をやり遂げたことをとても誇りに思います。

「がんにも、コロナにも負けないぞー」



リアル開催 8月20日～8月21日

開催地 尾道市しまなみ交流館

オンライン 8月20日～8月21日

SWR —

総 収 入	1,733,380円
実 行 経 費	1,120,086円
寄 付 総 額	613,294円

山口県 山口市

やまぐち実行委員会

みんなつながっちょる

実行委員長
國光 由美子

今年7回目となるRFLJやまぐちは、初めての室内で1日開催となり短時間でしたが3年ぶりに開催でき、無事に終えることができました。ご支援ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

やまぐちではこれまで台風の影響で中止や短縮開催になっていたのですが、いつも台風の心配をしていましたが、今年は室内開催ということで天気の心配がなかったりと良い事がいくつかありました。3年ぶりということで忘れていたこともありましたが、まずはリアル開催できたことを嬉しく思っています。

会場にはたくさんのルミナリエが並べられ、HOPEがすごく綺麗に輝いていて、今年は1周歩く度に模造紙にシールを貼り、参加者全員でHOPEを描きました。キラキラシールでとても素敵なHOPEが出来上がりました。

嬉しい出来事は、ホームページでRFLを知った県外の方が初めて参加しに来てくださったことです。その方は勇気を出してひとりで参加され、実行委員と楽しく過ごされたようで、これをきっかけにもっと外に出てみたいと言われていました。このように実行委員が参加者に寄り添い、話しかけて一緒に歩いたり、楽しんでいる様子を見てとても温かい気持ちになりました。

参加者も実行委員も楽しめる、温かいリレーをこれからも続けていきたいと思えます。



リアル開催 10月22日

開催地 山口県維新百年記念公園

オンライン —

SWR —

総収入	536,408円
実行経費	259,739円
寄付総額	276,669円

徳島県 徳島市

とくしま実行委員会

ともに歩く

実行委員長
香留 美菜

11年前、RFLJとくしまは今回の開催場所の公園で産声を上げました。

この数年は新型コロナウイルスの影響を考え、リアルな開催を見合わせてきましたが、今年は少しでも安心できる環境のなかで、との思いで屋外開催を決めました。

当日、準備をしていると声を掛けてくださる方がいました。

「3年振りだけど覚えてる?」もちろん覚えてます!

すると、その後ろで「僕のこと覚えてる?」と次々に話しかけられました。

会えなかった長い時間が、ゆっくりと優しい時間になんか変わったような感覚になりました。

しかし、今年来場された方の人数はこれまでのリアル開催に比べかなり減少しました。

このことにさみしい思いもあったのですが、開催当日の夜や翌日に「ちょっとだけだったけど行ったよ。歩いてきたよ。」というメッセージや会場の写真が届きました。

私たちが気付かない時間にそっと訪れてくださっていました。

感染に敏感になりながらもリレーに思いを寄せ、ともにこの時間を過ごしている方々の姿に改めてこの開催は私たち実行委員だけではない、皆さんお一人お一人の思いで形作られているのだと感じました。

私たちは一人ではない。このことを実感しながら、またこれからも一緒に歩んで行きたいと思えます。

ご支援くださった皆さま、応援してくださった皆さま。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



リアル開催 10月1日

開催地 徳島市新町川東公園

オンライン —

SWR 9月24日～10月7日

総収入	494,042円
実行経費	373,400円
寄付総額	120,642円

香川県 高松市

かがわ高松実行委員会

夜通しでつなぐ希望と想い

デジタル広報委員
藪内 聡史

2022年6月4日～5日に開催したRFLJ2022かがわ高松は皆さまのお陰をもちまして、無事に終えることができました。

昨年は2年ぶりの開催で、コロナ禍ということもあり1日のみの開催でしたが、今年は夜通しでおこなうことができました。3年ぶりの夜通しでしたので、体力面等不安もありましたが、イベントが始まると講演会、バンド演奏、絵本の朗読等、様々な催しが盛り沢山で、あっという間に時間が過ぎました。その中で、サバイバーの方達が再会する場面や、参加者が楽しそうに会話をしている場面を見ると、イベントを開催して良かったなと改めて思いました。

また夜になり、ルミナリエに灯りをともした後に、書かれたメッセージを読みながら歩くと心にしみいり、イベントを通して様々な感情に揺さぶられるのもRFLの良いところだなと思いました。

今年もコロナ禍ということもあり、現地にお越しいただいた方がコロナ前より少なくなりましたが、その代わりにオンライン配信をおこない、全国の方達とつながれました。これから前向きにできることを考えて、沢山の方達に希望と想いをつないでいけるように頑張ります！また来年も元気な姿でお会いできるのを楽しみにしています！最後にRFLJ2022かがわ高松の活動にご協力、ご支援いただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。



リアル開催 6月4日～6月5日

開催地 サンポート高松

オンライン 6月4日～6月5日

SWR —

総 収 入	984,260円
実 行 経 費	450,516円
寄 付 総 額	533,744円

高知県 高知市

高知実行委員会

RFLJ 高知15周年
3年ぶりの24時間リレー開催実行委員長
松浦 喜美夫

皆さまのご支援とご協力のもと、15回目となる「リレー・フォー・ライフ・ジャパン高知」を春野総合運動公園を会場に、10月22日～23日に開催しました。また、今年はスマホアプリを使っのセルフウォークリレー（10/1～30）を実施し、16道府県から142名の方にご参加いただき目標歩数を達成しました。

RFLでの高知のテーマは「みんなあ～でささえ愛」です。濱田高知県知事からは、「RFL活動に関して、引き続き皆様のご協力をいただき、がんに負けない社会を実現していく、この目標に向かって努力を致したい」とご挨拶をいただき、高知の24時間リレーがスタートしました。

息の合った楽器演奏や心に響く歌声に感動し、テントでは啓発活動が行われ、途切れることなくリレーが続き、仲間との交流の時間がゆっくりと流れていきます。

「がん患者は24時間、がん向き合っている」という思いを共有し、24時間タスキをつなぐと、深夜から明け方にかけてもチームメンバーが来場してくれました。終了後には、「今後もRFLが続いていくことを願っています」と参加者の声が寄せられました。これからも、サバイバーさんや支援者が、勇気と希望を分かち合えるRFLを継続し、皆さんと笑顔で再会出来ることを、楽しみにしております。最後になりましたが、ご協賛、ご支援いただいた企業、団体の皆さま、個人の皆さまに、心より感謝申し上げます。



リアル開催 10月22日～10月23日

開催地 高知県立春野総合運動公園

オンライン —

SWR 10月1日～10月30日

総 収 入	1,963,860円
実 行 経 費	953,860円
寄 付 総 額	1,010,000円

福岡県 福岡市

福岡実行委員会

明日への希望を！

実行委員長
田中 千晶

コロナ禍ではありますが、福岡で14回目のリレーを無事に開催することが出来ました。開催前から雨予報に悩まされていましたが、当日の朝にはお日様が!!なんだか不思議な力がはたらいているような、空を見上げて思わず「みんなありがとう!」と叫んでいました。スタッフ含め約500名の参加者で、久しぶりの再会を喜んだり、初めましてとご挨拶したり、会場は笑顔にあふれていました。今年も高校生たちがルミナリエの設置を手伝ってくれました。また、県と女子大生によるがん啓発活動の紹介やダンスパフォーマンス、実行委員にも大学生が参加してくれSNSでの情報、動画配信など、若い力が目立ちました。RFLでの経験や想いを忘れず、明日へと歩んでほしいなと思いました。

日が暮れるとHOPEとルミナリエの灯りに加え、会場のピンクのイルミネーションがとてもきれいに輝いていました。11月で肌寒く小雨も降る中でのエンプティテール、ラストウォークとなりましたが、多くの方々に参加していただき、大切な時間を共に過ごすことが出来ました。最後になりましたが、開催のためにご協力、ご支援いただいた関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



リアル開催	11月13日
開催地	福岡女子大学
オンライン	—
SWR	—

総収入	923,796円
実行経費	234,523円
寄付総額	689,273円

佐賀県 佐賀市

佐賀実行委員会

3年ぶりのリアル開催!!

副実行委員長
木下 博和

今年は、台風14号の影響で、9月17日(土)1日のみの開催となった「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022 佐賀」が3年ぶりにリアル開催することができました。

荒天での開催にも関わらず、参加延人数730名程、そしてサバイバーがん経験者の参加受付は230名にものぼり、サバイバーが主役のリレー開催ができたことは大変良かったです。

2015年に始まり、コロナ禍の2年半を挟み…8回目の開催!

リレー・フォー・ライフ・ジャパン佐賀での「佐賀さいこう表彰」も受賞するなど…今大会は心に残る大会となりました。

参加してくださった方や協賛・支援してくださったみなさまには、本当に感謝申し上げます。これからも、「佐賀のリレー・フォー・ライフ・ジャパン」をよろしくお願い致します。



リアル開催	9月17日
開催地	どんどんの森
オンライン	—
SWR	—

総収入	2,961,632円
実行経費	1,548,069円
寄付総額	1,413,563円

長崎県 佐世保市

佐世保実行委員会

感謝!感謝!で長崎県初開催

実行委員長
吉村 市代

長崎県においては初の開催となった「RFLJ2022佐世保」は、当初の予定を1年延期したため、2年数ヶ月の長期準備期間を経て6/12に無事終了いたしました。

梅雨の時期、数日前より予報は期待むなく雨でした。ところが前日の夜、雨があがる予報に変わりました。早朝は雨。業者さんスタッフとも濡れながら必死の設営です。天は味方した!開会式前に雨はあがり、約500名の参加者のテンションも一気に上げあげでした。サバイバーズラップ〜パレード〜ウォークリレーともアーケードを利用。パレード先導は地元で人気の東翔高校マーチングバンドです。通行人や商店の方々からも拍手や声援を受け、全員が感動と笑顔に包まれました。隣接する美術館で講演と啓発活動。チーム休憩はアーケード内のコミュニティセンターを利用しました。

賑やかだったステージイベントも終了し、夜の帳がおり始めルミナリエセレモニーへと続きます。公園の中心部にHOPEの文字をかたどるルミナリエがひとつずつ並べられていきます。なぜかその時だけぽつぽつと雨が降り出しました。ルミナリエを抱えた人々から「涙雨だろうか」との声が聞こえてきました。並べ終わったところドローンが上空から、HOPEと色とりどりのスティックライトを振っている私達を空撮しました。公園が狭くて小さめのHOPEしか作れなかったけど、みんなの心には大きな希望が夜空に浮かびあがりました。



リアル開催 6月11日～6月12日

開催地 佐世保市島瀬公園及び周辺

オンライン —

SWR 5月14日～6月12日

総 収 入	4,392,475円
実 行 経 費	1,872,999円
寄 付 総 額	2,519,476円

熊本県 熊本市

くまもと実行委員会

笑顔での再会を

実行委員長
山本 宏子

全世界が未曾有のコロナという恐怖に出会って3年目。

記念すべき第10回開催の令和2年5月中止、3年、4年と3年連続でのイベント開催を見送ることになった「RFLJ2022 くまもと」

昨年は開催予定日ギリギリまで実施有無を待ったため、連絡が遅れ実行委員有志のみで中止が判らず来場の方々の対応にあたり、事前に撮ったルミナリエの映像・会場では竹あかり・ルミナリエを少し飾り、配信にて皆様にみていただくことが出来ました。今年の第12回イベント開催自体は早くに中止を決めweb配信での開催に移しました。同じ会場で今の熊本を見て頂きたく実行委員のみ参加のプチ開催となりましたが、委員の協力のもと素敵なイベントをすることができ、若干20歳の頼もしい若い広報担当者君の頑張りです翌日午前には全国に向けて動画の配信ができたことは、とても嬉しく温かな気持ちが一つになった瞬間のように感じました。

くまもとのスローガンは『心ひとつ 絆つむいで』です。

参加するサバイバー、ケアギバー、医療関係者、ボランティア、またご賛同頂く企業・グループの方々と、「がん」という病気の周知・早期発見・治療の手助けのお手伝いが出来る事を、スローガンと共に胸を張って活動を広めたいと思います。

来年は楠若葉の新緑の美しい熊本・白川公園で会えるのを心待ちにしています。



リアル開催 —

開催地 —

オンライン 5月15日

SWR —

総 収 入	530,025円
実 行 経 費	62,054円
寄 付 総 額	467,971円

大分県 大分市

大分実行委員会

雨にも負けず、コロナにも負けず

実行委員長
大坪 美奈子

15年目を迎えた大分実行委員会は、昨年に引き続き縮小版のリアル大会を開催しました。今年は人数制限を緩和し、多くの方々にご参加頂くことができました。

天候に恵まれないことの多い大分大会ですが、今回も開会と同時に雨が降り始め、そのまま閉会まで降り続けました。

コロナ禍ということもあり、以前のような活気あふれたチームテントの企画や屋台のにぎわうイベントのわくわく感こそなかったものの、ご参加の皆さまが雨の中を黙々と歩き続ける様子からは、『がん征圧』を願うおひとりおひとりの強いお気持ちが見え、そのような光景に、実行委員会のメンバーは大きな力を頂き、続けることの大切さを実感することができました。

開催にあたり賜りました温かいご支援・ご寄付に、改めまして心より感謝申し上げます。

「がんで命を落とすことなど珍しい」、そんな世の中が現実のものとなるよう、雨にも負けず、コロナにも負けず、これからも地域の皆さまのお力を頂きながら歩き続ける実行委員会でありたいと思います。



リアル開催 10月9日

開催地 大分スポーツ公園大芝生広場

オンライン —

SWR 9月10日～10月10日

総収入	1,178,174円
実行経費	316,530円
寄付総額	861,644円

宮崎県 宮崎市

宮崎実行委員会

たくさんの想いと一緒に
希望の光を灯しましょう

実行委員長
佐藤 拓巨

今年も無事に2日間のがん啓発チャリティイベントを開催でき、とても安心しました。毎年、たくさんの企業をはじめ、このイベントにご理解ある方の有志で宮崎のRFLは成り立っていると、改めて感じることで第11回目の開催でした。まだまだコロナ禍であり、会場に来場できずルミネリエや募金・寄付といった形で、遠いところからも応援して頂き、本当にありがとうございました。実行委員会の代表として心から感謝申し上げます。

これからも一人でも多くのサバイバーさんをはじめ、がんで大切な方をなくされた方の為に、何かできる事はないかを考えながら日々啓発活動をさせていただきます。今後ともRFLJ宮崎を宜しくお願い致します。



リアル開催 10月29日～10月30日

開催地 文化の森 宮崎中央公園

オンライン —

SWR —

総収入	1,276,925円
実行経費	544,510円
寄付総額	732,415円

沖縄県 浦添市

おきなわ実行委員会

今年もオンライン&ラジオからのお届け～

実行委員長
上原 弘美

今年で8年目となるリレー・フォー・ライフ・ジャパンおきなわ2022は、一昨年前よりオンライン&ラジオからの配信となりました。

12月10日(土)15時スタートで講演会第1部「足し算でがんを生きる緩和ケア医のお話し」講師大橋洋平先生、第2部「がんに効く健康食品って本当?」大野智先生のお二人は県外からZOOMでご講演いただき、大変興味深い内容でした。

ルミナリエセレモニーの会場は、少し高台で景色を遮るものもなく差し込む太陽の光が次第に沈み、夕暮れ時になるとルミナリエが灯りはじめ「HOPE」の文字が輝き、会場を温かく包んでくれました。

その後は、会場をFM21ラジオ局に移し、21時からサバイバーズトーク、みんなで語ろう!リレー・フォー・ライフ、ラジオでつながるルミナリエを配信し、翌朝はオンラインで「朝日を見よう」で無事閉幕となりました。

開催1週間前の天気予報は雨マークだったのが次第に晴れマークとなり、当日は12月とは思えないほどの暑さでした。私たちの想いが天に届き、旅立った仲間からのエールを感じました。

今年もオンラインだからこそ、念願の講師に講演依頼できたこと、そして仲間と少しの間でも参加できた喜びを分かち合えました。

ご支援ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



リアル開催 —

開催地 —

オンライン 12月10日～12月11日

SWR 11月1日～11月30日

総 収 入 591,581円

実 行 経 費 154,759円

寄 付 総 額 436,822円

かがわ高松



泉州

富山



にいがた

滋賀医科大学



京都

2022 特別協賛

総合教育・生涯学習機関



高める、つくる、そして、支える。



※五十音順

がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい



日本対がん協会公式HP

<https://www.jcancer.jp>



リレー・フォー・ライフ・ジャパン
公式HP

<https://relayforlife.jp>



リレー・フォー・ライフ・ジャパン
公式Facebook

<https://www.facebook.com/RelayForLife.Japan>